

(7 -) アルミ圧延

15 / 14 16 / 15 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成15年度の板類の出荷は、主力の缶材が発泡酒の増税や天候不順の影響で微減となったが、印刷板、自動車部材、半導体・液晶製造装置向けが好調だったことにより前年度比+3.2%増であった。また、平成15年度の押出類の出荷は、主力の建築材が前年並みで推移したものの、自動車部材、半導体・液晶製造装置向けが好調で、前年度比+2.2%増と板同様2年連続で増加した。これにより、板類・押出類合計では、同+2.2%増となった。また、アルミ箔はコンデンサー向けが下期に回復したが、上期がマイナスで推移し、輸出もマイナスであったことから、平成15年度の出荷は、1.2%と2年ぶりにマイナスになった。

今後の見通しとして、缶材、自動車用の出荷が好調を維持する一方、新設住宅着工数減少の影響を受けることから、全体としては微増と予想される。

(2) 生産・設備稼働

15年度の生産量は、板類が+2.8%、押出類が+2.6%、箔が1.6%(いずれも前年度比)となった。

板類は、これまでのピークであった平成12年度を1.7%上回り過去最高。一方、押出類は過去のピークであった平成8年度比19.1%のレベル。アルミ箔はITバブルであった平成12年度比7.0%のレベルであった。

(3) 企業収益

アルミ圧延主要企業の経営動向(大手5社アルミ部門ベース)(単位:億円、%)

	平成14年度	平成15年度
売上高	12,669	14,433
営業利益	575	796

昨年10月古河電工とスカイアルミが合併

昨年10月に古河電工とスカイアルミが合併したことから、前年度と比較出来ないが、全4社の売上高、営業利益とも前年度比増であった。なお、古河スカイの設立後初の決算も好調に推移し、今期も収益面で一層の改善を見込んでいる。

2．設備投資動向

アルミ圧延業の設備投資動向（単位：百万円、％）

	14-15共通回答企業		15-16共通回答企業		15/14	16/15
	14年度	15年度	15年度	16年度		
アルミ圧延	13,534	15,064	15,064	18,568	111.3	123.3

(1)これまでの設備投資の推移

15年度上期までは、更新、維持・補修が中心であったが、16年度以降は景気回復に伴う受注増の予想から減価償却の範囲内ではあるが、投資が増加する見込み。

(2)平成16年度の設備投資計画

今後の景気先行き不透明感を背景に、更なるコスト削減（省人化）、生産の効率化を目的とした投資や品質改善に力点を置く傾向にあるが、自動車向け板材製造装置の増強及び、設備の更新、維持・補修に若干の投資額増加が見込まれる。

3．長期資金調達・運用動向

15年度の設備投資は抑制傾向であり、内部資金調達で充当され、さらに資金の一部は社債への返済が行われた。16年度も同様の傾向であるが、売上、営業利益が好調なことから民間の金融機関への返済が進む見込みである。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

